

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名 北海道

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	風連町立風連中学校					教員数
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	17
学級数	2	2	2	2	8	
児童数	50	46	53	2	151	

研究の概要

1. 研究主題

「本校で学ぶすべての生徒に、わかる喜び・学ぶ楽しさが感じられる学校」
新しい学習指導要領のねらいとする基礎・基本の確実な定着を図るために、指導方法や指導体制の工夫改善を図り、生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実に努める。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

第1学年～第3学年・数学科
生徒の理解の程度に差がしやすい教科であるため、生徒一人一人にとって「わかる授業」となるように個に応じたきめ細かな指導の充実に努める。

(2) 年次計画

平成14年度
 テーマ 「 わかる喜び・学ぶ楽しさへのアプローチ 」
 ・個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を図り、基礎的・基本的な内容を確実に身に付け、自ら学ぶ力を培うなど確かな学力の向上に努める。
 仮説
 ・T・Tや少人数指導、習熟度別指導などの個に応じたきめ細かな指導を行うことにより、生徒一人一人に基礎・基本の定着を図り、自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力を培うことができる。
 研究内容・方法
 ・個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善
 ・個に応じた指導のための教材開発
 ・学習に対する生徒の意識調査
 ・学習状況の評価と評定
 ・研修会(外部講師招へい)

平成15年度
 テーマ 「 わかる喜び・学ぶ楽しさへのチャレンジ 」
 ・生徒の意識調査や学力調査から実態把握を行い、生徒一人一人の学習状況に応じた指導を工夫し、主体的に学ぶ力を培う。
 仮説
 ・個に応じた教材の開発や習熟度別指導の取組など、個に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を進めることにより、確かな学力の向上を図ることができる。
 研究内容・方法
 ・14年度の実践をもとに、多面的に評価し課題を明らかにして、より具体的な方策を策定する。
 ・意識調査や評価を生かした指導の改善(指導計画・指導案)
 ・1, 2年次の成果をまとめ、本事業の普及に資するとともに、有効な実践とするために外部からの示唆を得る。
 ・研修会(外部講師招へい)

平成16年度
 テーマ 「 わかる喜び・学ぶ楽しさへのチャレンジ 」
 ・生徒や保護者の意識調査や学力調査をもとに、具体的な指導方法等の工夫改善を図り、より確かな学力の向上を図る。
 仮説
 ・2カ年の成果や課題を踏まえ、個や集団に応じた指導方法や指導体制、指導に生かす評価の工夫改善を行うことで、生徒一人一人に確かな学力を培うことができる。
 研究内容・方法
 ・2カ年の成果や課題を踏まえ、指導方法や指導体制の見直しを図るとともに、本校の数学科だけでなく他校でも活用できる具体的な指導方法などの工夫改善を図る。
 ・指導と評価の一体化を図り、わかる授業や学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを進める。
 ・本事業の成果をまとめ、冊子等で公開し、本事業の普及に資する。
 ・教育講演会(外部講師招へい)

(3) 研究推進体制

平成15年度から、校務分掌の組織に、学力向上フロンティア事業推進委員会及び専門委員会を設置する。

学力向上フロンティア事業推進委員会 - 校長・教頭・教務主任・研修・数学科担当
専門委員会 - 教頭・教務主任・研修・数学科担当

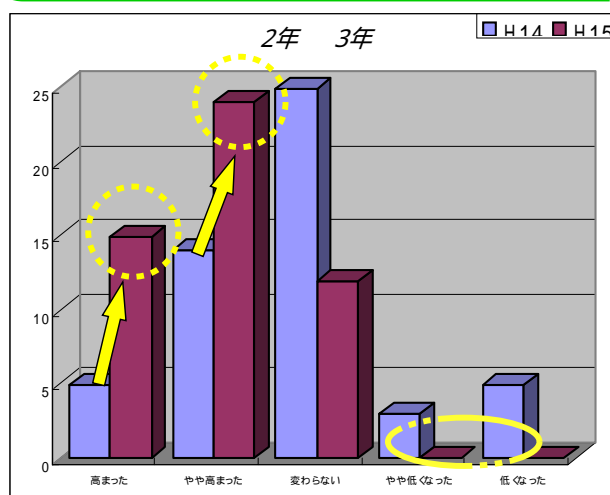
平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

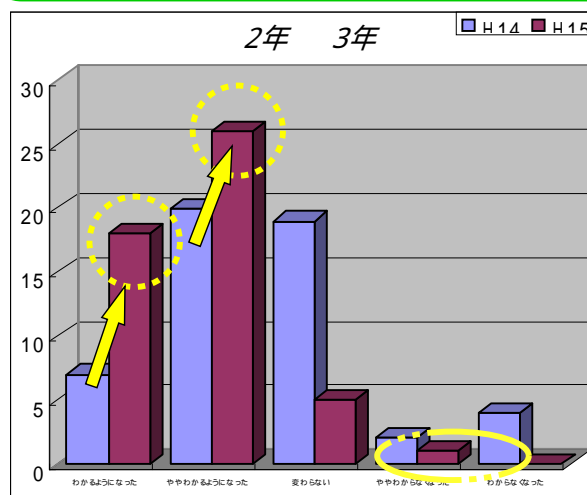
- ・少人数指導の指導方法や指導体制について、教員間で共通理解を図り、具体的な指導方法などを指導計画に位置付けることができた。
- ・標準学力検査（CRT）や授業の導入時における小テスト、診断テストなどを効果的に活用することにより生徒一人一人を総括的に評価することができ、生徒の実態を把握できるようになった。
- ・宿題や授業の導入時における小テストを行うことにより学習内容の定着をより図れるようになった。
- ・地域や保護者に向けて「フロンティア通信」を発行することにより保護者へ本事業の趣旨などを伝えることができた。

【学習アンケート処理データの一例（H15.12.24実施）】

Q. TTや少人数学習により「学習についての意欲」が高まりましたか？



Q. TTや少人数学習により「授業中の学習内容」がどのように変化しましたか？



前年度との比較は、同一生徒（現第3学年は第2学年時というように）を対象に行った。「理解できるようになったから やる気が高まった」という肯定的な意見が顕著に見取ることができる。また、学習内容の理解に時間を要する生徒においても学習意欲の向上が大きく数字として表れた。

2. 今後の課題

- ・基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため、指導計画段階での目標・評価の観点を見直していく必要がある。
- ・一斉指導、少人数指導における教材を開発する必要がある。
- ・指導計画のどの段階で少人数指導のどの形態が有効なのかの見直していく必要がある
- ・準備・反省・評価に関する打合せの時間を効果的に確保する必要がある。
- ・一斉授業でのサブティチャー（ST）の有効な役割を明確にする必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

標準学力検査（CRT）による学力把握

- ・年1回の検査であるため、第2・3学年では前年度実施されたテストと同じ内容を再度、新学期に行うことで、学力の把握に努めている。また、領域別の定着の度合を確認し、弱点単元の克服に努めた。

宿題による学力把握

- ・1,2学年については、10分程度で行える宿題を毎日実施し、採点することにより、個々の弱点単元や得意単元を確認している。

小テストによる学力把握

- ・授業の最初の時間に小テストを実施することにより、前時の授業等の理解度を確認するだけでなく、学習に対する意欲付けにつながっている。

【標準学力検査（CRT）検査の分析より～学力の評価を生かした指導の改善】

全国との比較を行うことができ、学級平均、個人とそれぞれの問題によって結果が出ることから、弱点部分を把握し、定着内容を確認することにより、指導の改善に生かすことができた。

～ CRT から読み取れる結果分析～

まず、第 2 学年の最後にマークシート方式による CRT をテスト形式で実施した。その後、3 年生の後期を迎え、再度、筆記形式により実施した。（学級は持ち上がり）

結果をみると、全体的な学力は向上していると読み取れるが、かなりの下降がみられる問題もある。学年平均と全国平均との比較から、全国平均を上回っている問題数は全 61 問中、前回は 10 問しかなかったが、今回は 30 問であった。また、全国平均を下回る問題については、関数領域が 1.6 問中 1.2 問とほとんどが 5.0% を下回っている。

学年	国	数	理	社	英	倫	理	地	歴	科	計	全
2014	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
2015	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
全国平均	14	68	68	82	56	70	56	82	85	80	81	67

Diagram illustrating the process flow: テスト (Test) → 各学級の理解度把握 (Understanding degree grasp of each class) → 指導方法の見直し (Re-evaluation of teaching methods).

【家庭学習の習慣化 つまずきの把握のために、学習の基礎を支えるための教材】



- ① 授業で分かった所を分からなかった所について宿題をやってみたいの感想等を書け
- ① 方程式か、文章問題が、全然理解できません。
 - ② これくらいの量ないで済むので、やりがいが、にです。
- ① 授業で分かった所を分からなかった所について宿題をやってみたいの感想等を書け
- ① 20x - 20x というのは R でなく 0 でいいんですか？
 - ② 自分では、そこまでできるんだと思えました。

「宿題なんてどうせやらない」「どうせ誰かのをしているのだから」という生徒の声を多く耳にする が、本校では、しっかり定着してもらいたい基礎的・基本的な内容を検討し、生徒が取り組みやすい宿題を出している。

学校だけが学習の場ではなく、家庭学習も含めた学習のあり方を考えてみる必要もあるのではないかと考え、取り組んでいる段階である。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

「フロンティア通信」の発行

・ 月 1 回、保護者に向けて取り組みの概要やその様子を伝えている。

研修会 日 時 平成 15 年 11 月 19 日（水）
場 所 風連町立風連中学校
テ ー マ 「確かな学力」と授業改善の視点
講 師 北海道教育大学旭川校 教授 相馬 一彦
対 象 町教育関係者、町内教職員、本校教職員



各研究会での研究発表

・ 名寄地区研究大会、上川管内研究大会において研究の成果と課題について発表を行った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科） 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無